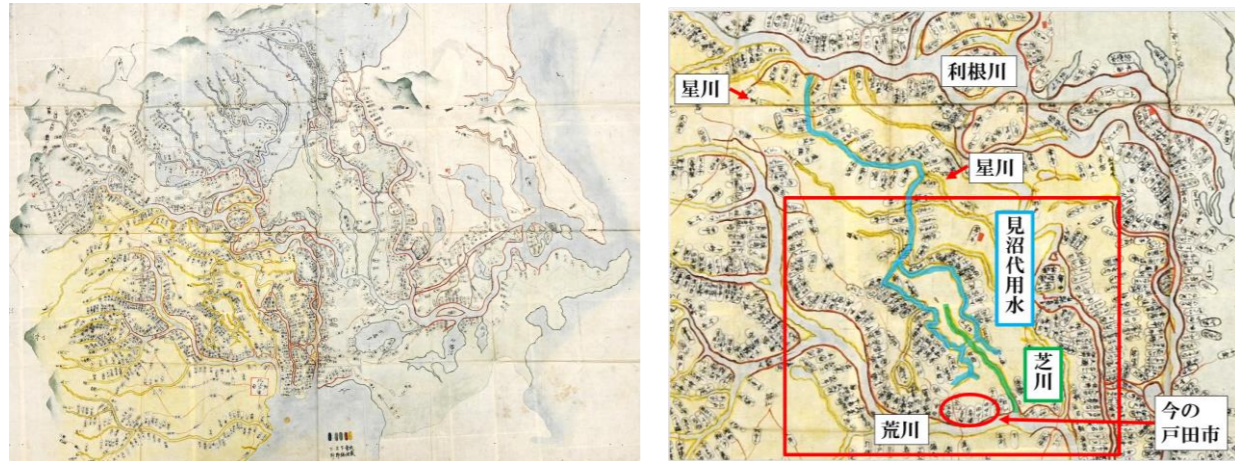


1 主に使用する資料

足立家105足立関東絵図 (彩色)



この資料は、関東平野を流れる主要な河川と沿岸の地名がかかれた絵図です。流路が5色で色分けされていますが、これは、関東のどの国の領地にあたるのかを示しています。既に見沼代用水は完成しています。

なお、左側の画像は、全体を表したものです。右側は、見沼代用水の流路を拡大するとともに、河川の名称等を入れて教材化したものです。見沼代用水ができる前の絵図と、この絵図を組み合わせることで、子供たちに開発された河川であることを実感させることができます。

2 指導例

(1) 本時のねらい

- ・地形や工期などの情報を手がかりに見沼代用水の流路を予想したり、学芸員の解説を聞いたりすることで、井沢弥惣兵衛の開発上の工夫や努力を理解する。

(2) 展開

学習活動・学習内容	○指導上の留意点	資料等
<p>1 文書館を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書館の役割や働きを知ること。 <p>2 既習事項をクイズ形式で振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井沢弥惣兵衛と見沼代用水の既習事項を確認すること。 <p>3 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>井沢弥惣兵衛は、見沼代用水をどんな流路にしたのだろう。</p> </div>	<p>○テンポよく進め、児童の学習意欲を喚起する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文書館紹介スライド

- 4 井沢弥惣兵衛が実際に開発した流路をグループまたは個人で予想し、ワークシートに記入する。
- ・見沼代用水の流路を予想すること。

- 5 予想した流路をもとに、グループや全体で発表し合う。

- 6 井沢弥惣兵衛が開発した流路とその工夫について、学芸員の解説を聞く。



- ・安定供給できるように利根川から水を取ったこと。
- ・短期間で工事できるように、元からある川や地形を利用したこと。
- ・水が溜まらないよう、芝川に排水できるようにしたこと。

- 7 まとめ・振り返り

井沢弥惣兵衛は、工事が短い期間でできるよう、また、洪水等を防げるよう、地形を利用して、見沼代用水の流路を考えた。

- 3 担当より

- ・本指導例は、小学校学習指導要領社会科編の「内容(4)ア(イ)イ(ア)(イ)」を受け、井沢弥惣兵衛と見沼代用水を事例に作成したもので、戸田市立美谷本小学校で行った出前授業(授業者 黒田龍正 主幹教諭)をもとに作成しています。
- ・収蔵資料検索システムに「見沼代用水」と入力すると、2000点近くの資料が出てきます(令和6年度現在)。資料についてお問い合わせがありましたら、学校等支援担当まで御連絡ください。

- 工事期間や取水口など、予想に必要なヒントを提示する。
- 自分が予想した根拠が説明できるようにさせる。



- 児童の考えを電子黒板上で示して、全体で共有する。自分が考えた流路の根拠を説明させる。

- 利根川の水が、見沼溜め井を利用して人々に安定して供給できる流路を短期間で作れるように、様々な工夫を凝らしたことに気づかせる。

- 児童の言葉をもとに、重要構造物の働きをまとめていく。

・ワークシート(地図)

・足立家105足立関東絵図(彩色)
・地理院地図(高低図)